

The Gentlemen's Grage Life

男たちがたどり着いた理想の空間 日々をゆたかにする“ガレージのある暮らし”

クルマやバイクを、人生のパートナーとして楽しむ人たちがいる。今回は、そんな彼らがこだわり抜いて建てた、ガレージの実例を一挙にご紹介。「好きなものと、毎日一緒に暮らす」。それは、思っているよりずっと豊かな生き方だ。

PHOTO & TEXT_Kazutoshi AKIMOTO 秋元一利 CONTACT_HOME&STORE DESIGN SONS WEB_ <https://sons-builder.com>



福岡県宗像市の自邸にガレージを増築した橋本さん。当初はポルシェ911（手前）を格納する予定だったが、建築計画の途中でMG-Bを手に入れたことで、ガレージの主役が変更。ガレージのデザインもクラシックな“納屋”風になった。



ガレージは外断熱仕様になっており、内壁は躯体の現し仕上げになっている。無骨なディテールがMG-Bやトライアンフ・ボンネビルの持つ世界観とよくマッチしている。



右上はガレージの完成前まではレンタルガレージで保管していたというトライアンフ・ボンネビルT120。左上はガレージと母屋を繋ぐ出入り口。ガレージにはロフトも備えられており、写真左の階段を使って上り下りできる。

母屋に溶け込むように増築された 欧米の納屋をイメージしたガレージ

橋本さんにとって、1962年式のMG-Bは特別な一台だった。若い頃、憧れていたMG-Bを手に入れたものの、結婚をきっかけに手放すことになったという。

「日常生活には不便だったんで、結婚を機に、しぶしぶ手放したんです」。

それから40年以上が過ぎたある日、個人売買で偶然見つけたのが、現在所有しているMG-Bだ。1963年に日本へ最初に輸入された50台のうち、19番目の個体だという。前オーナーがガレージで丁寧に保管していたこともあり、状態はかなり良かった。

MG-Bのほかにも、2022年式のトライアンフ・ボンネビルT120や、2023年式のポルシェ 911 GTSなど、橋本さんの愛車はどれも魅力的だ。

「昔から欧州車への憧れがありましてね。特にこの車種じゃないっていうのはないんですけど、雰囲気が好きなんです」。

そんな愛車たちを大切に保管するためには、やっぱりクルマの世界観にふさわしい空間が必要だった。当初はレンタル・ガレージを使っていたそうだが、より愛着を持って付き合える場所が欲しくなり、自宅の敷地にガレージを建てることにしたという。

ガレージの設計・施工をお願いしたのは福岡県古賀市を拠点とする「HOME&STORE DESIGN SONS」だ。橋本さんは、長年付き合いがある同社代表の酒井さんのスタイルを熟知しており、予算以外の点はすべてお任せしたそうだ。こうして、母屋の雰囲気に溶け込むような形でガレ

ジが増築された。

「母屋の横にあっても違和感がないように気を使いながら、海外の納屋っぽい雰囲気にしました」と語るのは、酒井さん。

外張り断熱やアメリカ製のドアや窓、日本製の木目調ガレージドアなど、素材や仕様にもこだわりが詰まっている。室内にはエアコンも導入。床はクルマの重量にも耐えられるタイル仕上げになっている。

完成したガレージは、クルマを磨いたり、ちょっとしたメンテナンスをしたり、橋本さんにとって、日々の暮らしの中で、心をリセットするのに格好の空間になった。

趣味と生活が自然に溶け合うこのガレージは、橋本さんのライフスタイルに必要な不可欠な存在となっている。

ガレージの中では車やバイクを磨いたり、簡単なメンテナンスを楽しむことが多いという橋本さん。ガレージには、バイクに合わせたファッションも用意されており、いつでも走り出せるようになっている。

